

(2)名蔵湾定置網漁獲量調査

前年度に引き続いて定置網漁獲量調査を実施した。方法は名蔵湾に定置網を設置している漁業者の水揚げ記録を、1988年1月から1988年12月までの間沖縄県漁連のセリ帳から選別集計した(表-7)。

ただし対象漁業者は併せて籠網、刺網なども行っておりセリ帳には、それらも混ざって記録されている。その中から純粹に定置網分だけを選別することは困難であり、ここでは定置網の主対象魚種についてのみ示した。(表-8から表-13、図-8から図-12) 漁獲量の変動も、漁連への出荷量が変動した場合と、実際に漁獲量が増減した場合がある。その点の吟味は今後の問題としてここでは、単純に増減傾向をみた。

コノシロ類(ドロクイ)

ドロクイは前年同様3月~6月(春期群)、10月~11月(秋期群)にピークが見られた。1988年は春期群の漁獲量が前年の約1/3と少ない反面、秋期群は増加した。現在までのところドロクイの春、秋期群の生物学的特徴(産卵期、体長組成など)は不明であるため、漁獲量の変動要因解析は行えない。今後、情報の蓄積を計っていく必要がある。

サヨリ類

ホシサヨリが主体と思われる。前年同様、主に11月~5月にかけて漁獲される。主漁期間の漁獲量は表-9に示すとうりである。年間変動量は約2倍である。

1987年から1988年にかけての漁獲は中程度である。

カマス類

タイワンカマスが主体をなす。9月~5月に主に漁獲される。主漁期別の漁獲量は700~800Kgと非常に安定している。

ヒメジ類

前年同様、5月~6月にピークを示し8月~9月に落ち込んだ。

イスズミ類

11月~12月に漁獲のピークがあり、5月頃までとれ続け

表-8 ドロクイの漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.11-1985.3	632.0
1985.10-12	465.4
1986.3-6	10.0
1986.10-1987.1	1096.6
1987.3-6	1010.4
1987.9-12	624.8
1988.3-6	310.3
1988.9-1989.1	1088.0

表-9 サヨリ類の漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.10-1985.5	130.0
1985.11-1986.5	90.3
1986.11-1987.5	208.2
1987.11-1988.5	171.3

表-10 カマス類の漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.9-1985.7	865.0
1985.9-1986.5	841.1
1986.9-1987.5	822.5
1987.8-1988.6	757.4

るパターンを示している。1988年冬季の漁獲は非常に多く1985年、1986年の漁獲量の3倍となっている。

クロサギ類

漁獲量に目立った季節性は見られない。1987年3月-7月には多量に漁獲されたが1988年、同時期には多くはなく12月に増加した。漁獲量年計では1988年は1986年と並んで低水準であった。

ミナミクロダイ類

7月-8月、1月-2月頃、漁獲量が減少する。(ただし1985年1月-2月にはこの傾向は明瞭でない。) 1月-2月は産卵期となっていることが、その時期の漁獲の減少となんらかの係わりを持っていることは想像できるが、7月-8月は不明である。

ギンガメアジ類

10月-11月頃に漁獲のピークをもつ。1988年の漁獲は多く1987年の3倍以上となった。

ヨロイアジ類

漁獲量の季節性は明瞭でない。1988年の漁獲は1986年と並んで低く、1987年の約1/2程度である。

ゴマアイゴ類

4月-6月(春期群)と10月-12月(秋期群)にピークを持つが、春期群が圧倒的に多い。1988年春期群は1984年以後最も多い。

アイゴ類

例年どうり4月-6月に漁獲のピークを持つ。定置網漁獲物中で本種の占める割合が最も大きい。1986年を除いてほぼ同水準の漁獲量がある。

表-11 イズズミ類の漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.10-1985.6	432.5
1985.11-1986.6	215.2
1986.11-1987.5	295.8
1987.10-1988.7	319.4
1988.10-1989.1	618.4

表-12

ミナミクロダイ類の漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.2-1984.7	779.0
1984.8-1985.1	488.5
1985.2-1985.7	464.0
1985.8-1986.1	318.5
1986.2-1986.7	434.2
1986.8-1987.1	657.1
1987.2-1987.7	359.4
1987.8-1988.1	473.2
1988.2-1988.7	480.4
1988.8-1989.1	377.2

表-13 ゴマアイゴの漁期区分と漁獲量

漁期	漁獲量(Kg)
1984.1-1984.8	1485.0
1984.9-1985.1	838.0
1985.2-1985.7	1617.0
1985.8-1986.2	342.5
1986.3-1986.7	1145.0
1986.8-1987.1	821.0
1987.2-1987.7	1658.8
1987.8-1988.1	656.8
1988.2-1988.7	1869.3
1988.8-1989.1	734.8

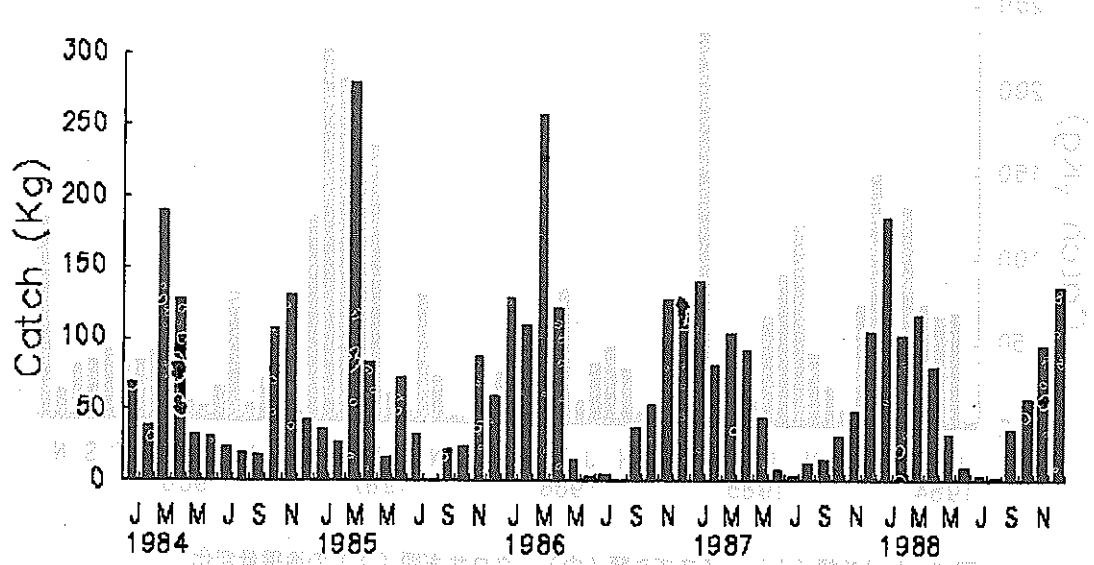
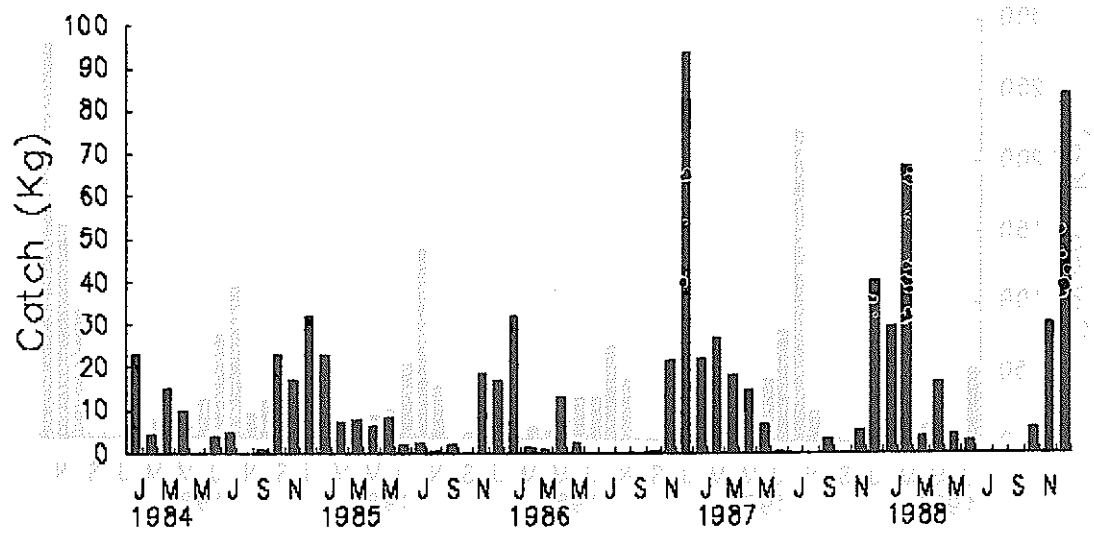
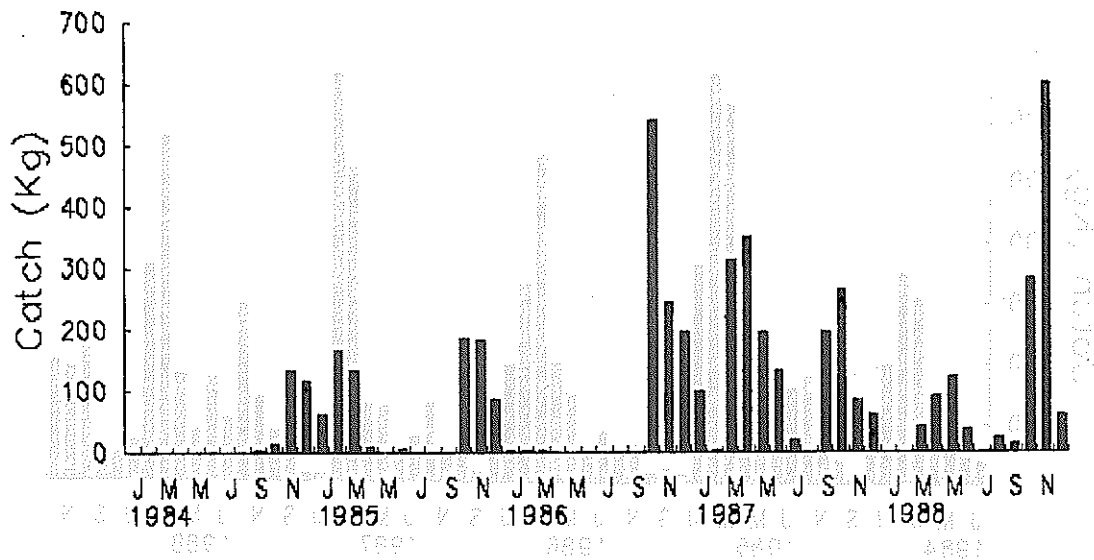


図-8 ドロクイ(上)、サヨリ類(中)、カマス類(下)の漁獲量変化

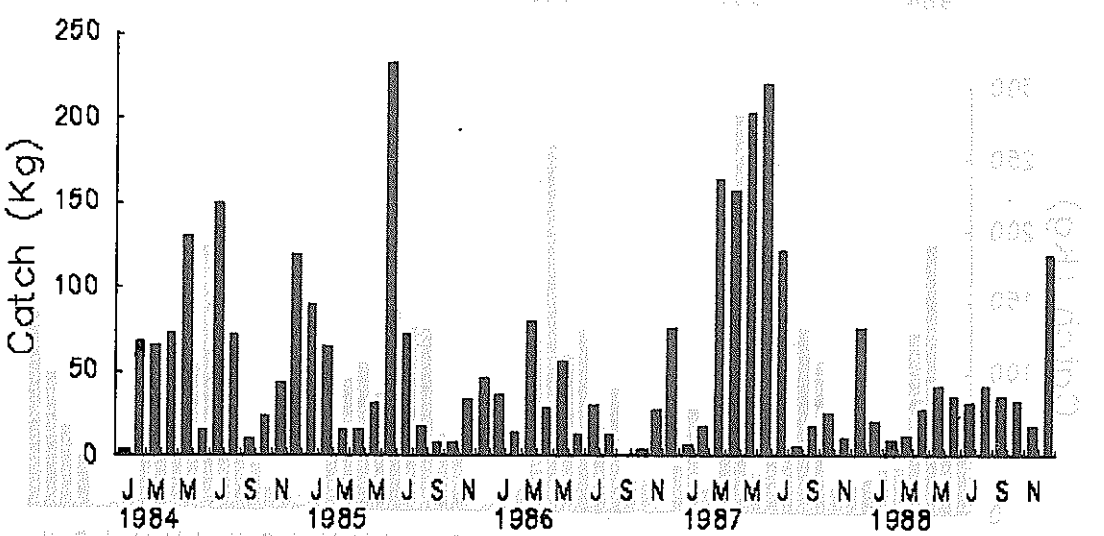
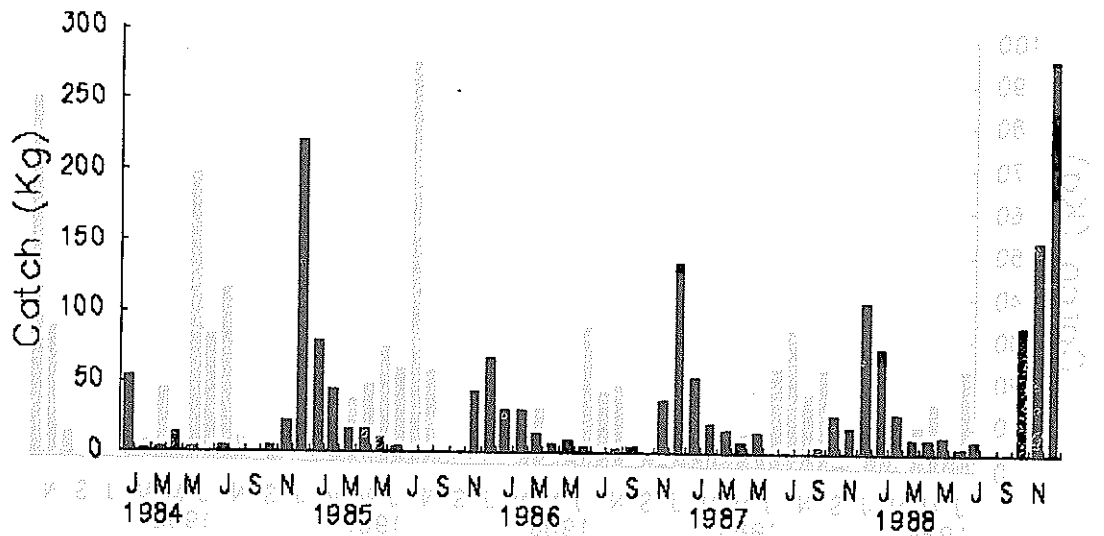
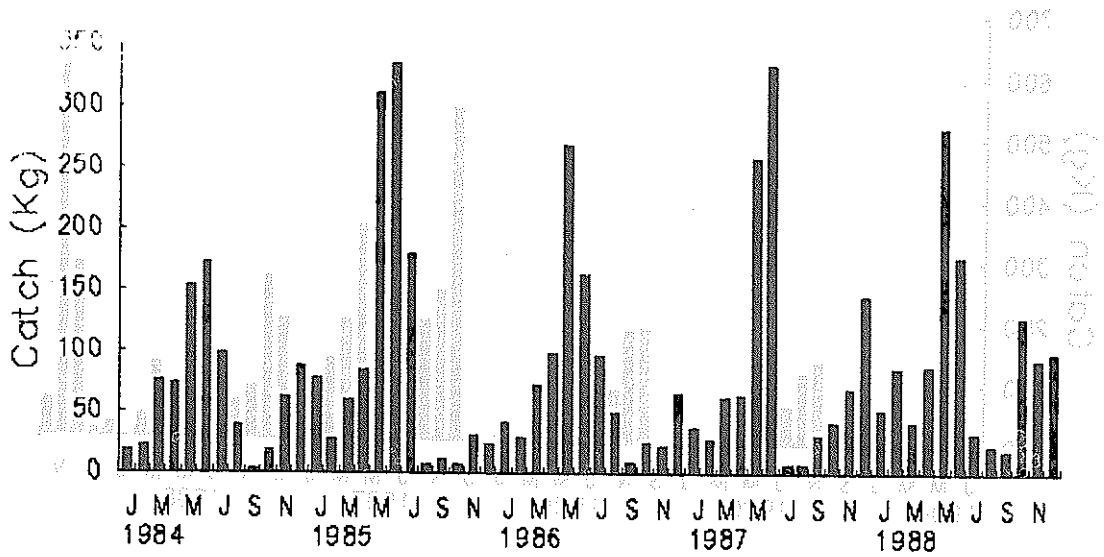


図-9 ヒメジ類(上)、イスズミ類(中)、クロサギ類(下)の漁獲量変化

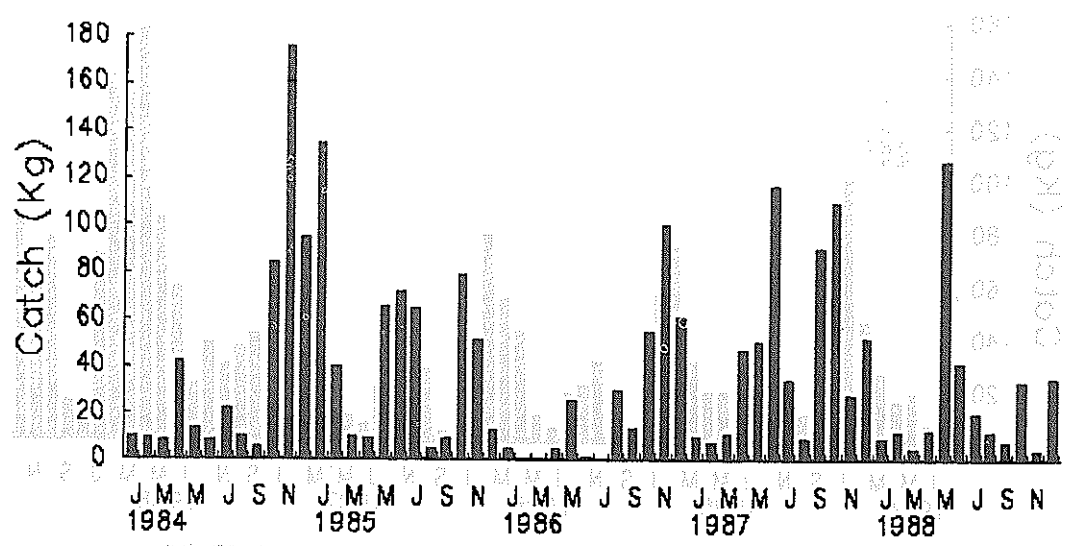
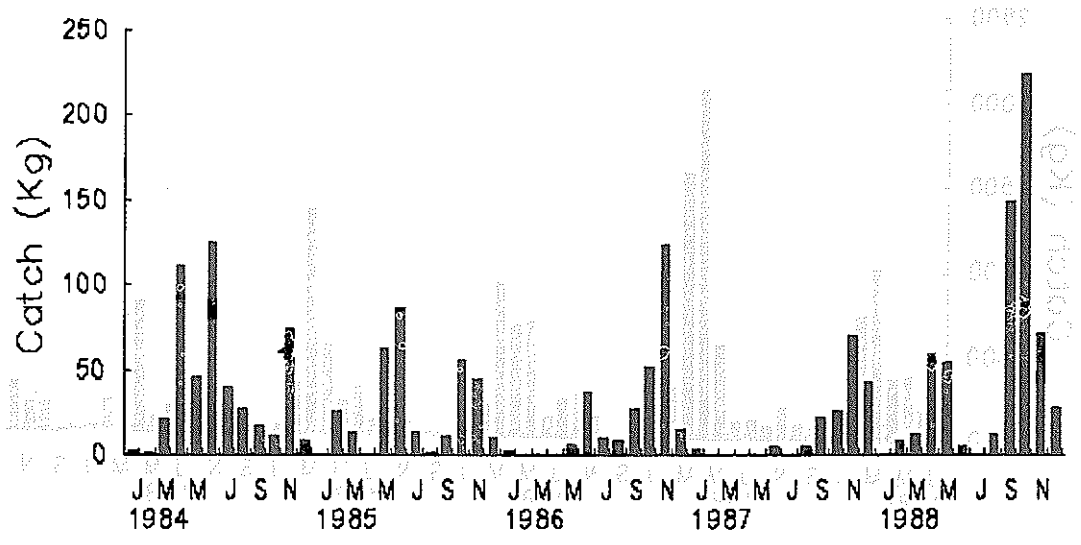
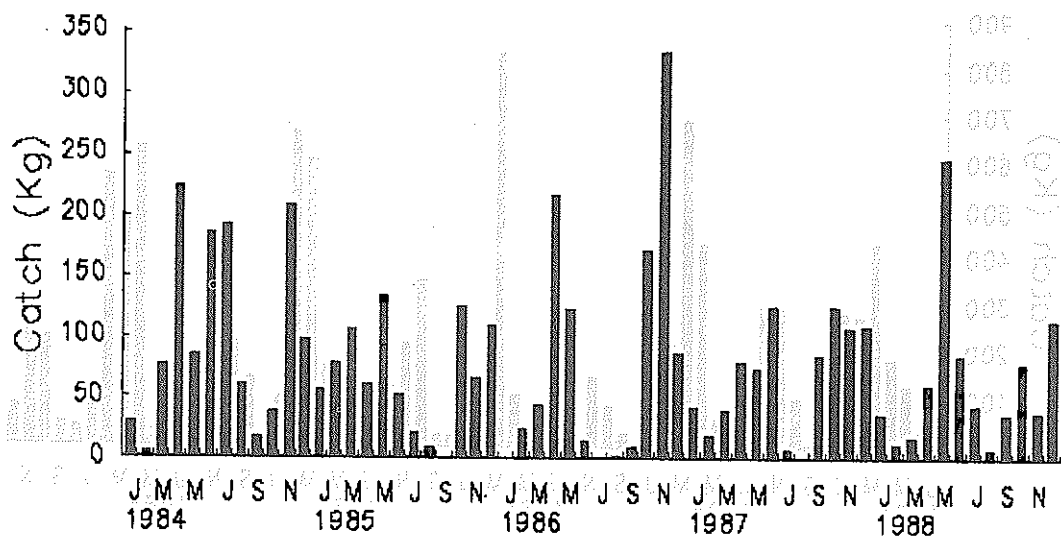


図-10 ミナミクロダイ類(上)、キングメアジ類(中)、ヨロイアジ類(下)の漁獲量変化

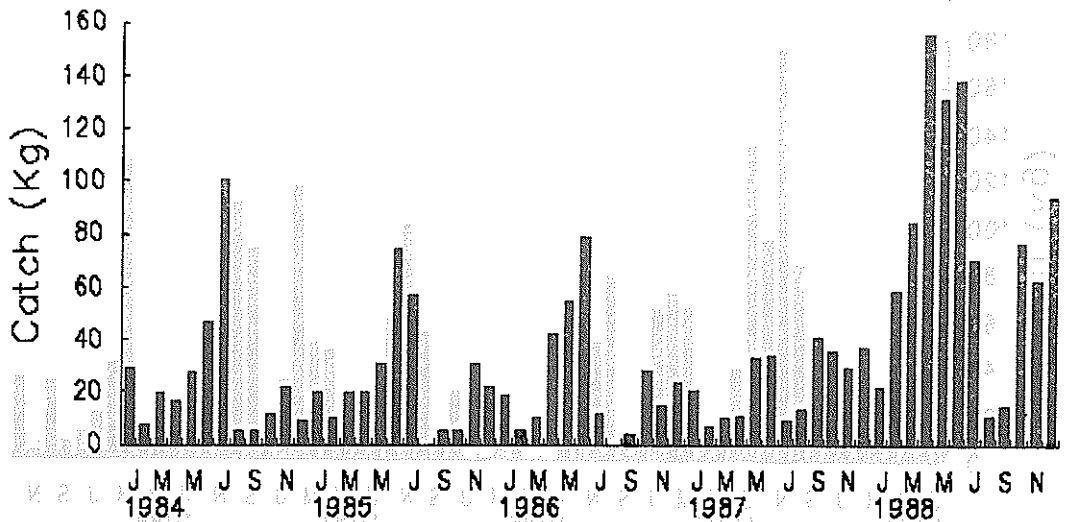
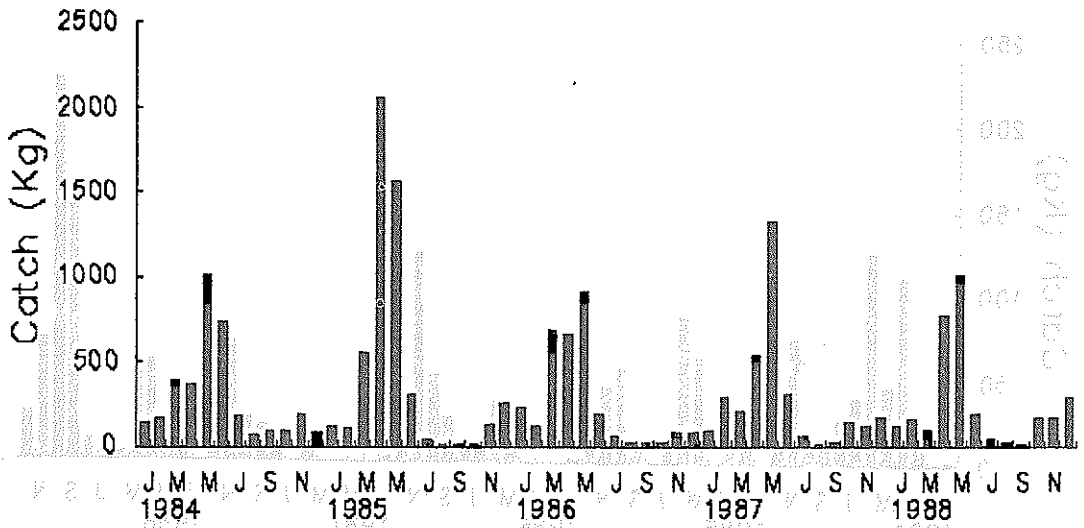
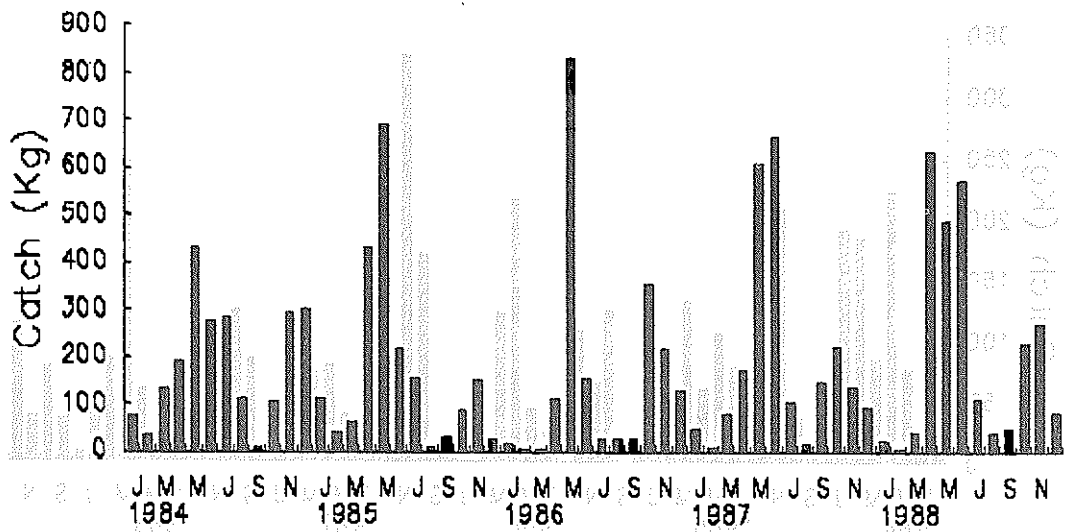


図-11 ゴマアイゴ(上)、アイゴ類(中)、ハリセンボン類(下)の漁獲量変化

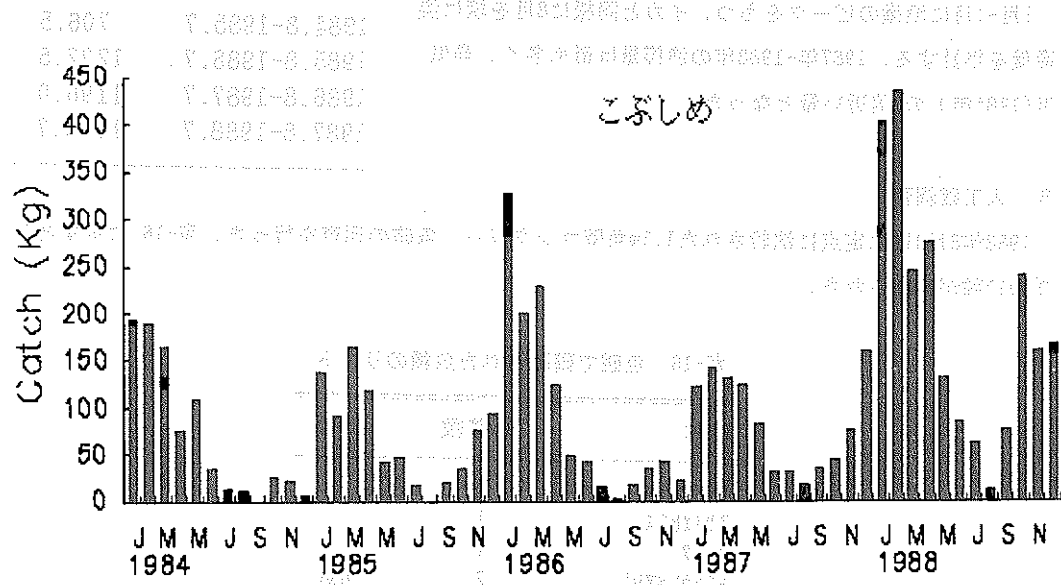
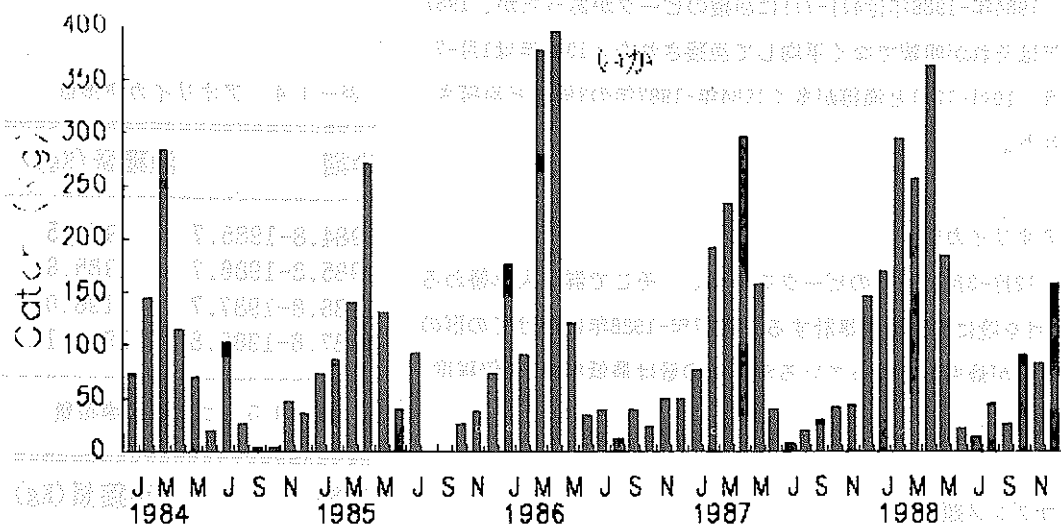


図-12 アオリイカ(上)、コブシメ類(下)の漁獲量変化